

岩手県気仙地区と愛知県、そして全国の人々をつないで

特定非営利活動法人 愛知ネット 事務局長 南里 幸

私たちは、2011年3月から岩手県の気仙地区(県南の大船渡市・陸前高田市・住田町で構成される地区)で活動を続けています。3月11日直前に、JAXAとの衛星「きずな」を利用した新潟県における実証訓練を予定していたので、機材をそのまま持ち、応援要請のあった岩手県の沿岸広域振興局(大船渡市)で情報支援活動を実施したことが、活動のはじまりでした。

私たちの主たる活動は災害救援活動ですが、日常の活動の一つに市民活動支援があります。地域の市民活動団体の皆さんの活動が、被災地の復旧や復興にも欠かせない。これは、これまでの災害現場からの学びの一つです。岩手県気仙地区でも多くの市民の皆さんが必要とされ、活動されています。これまでに気仙地区の皆さんと、愛知をはじめとした全国の2500人以上の方をつなぎ、情報支援にはじまり、炊き出し、お茶会、おまつりの応援、手仕事づくり、こころのケア、仮設住宅での活動などを実施してきました。

また、愛知県での活動も継続しています。特に、愛知県被災者支援センター では、現在、1月31日に開かれる「第4回全体交流会」の準備をすすめています。スタッフ一人ひとりが、愛知へ避難されているお一人おひとりの顔を頭に浮かべながら、また避難されている方と一緒に企画を練りながら、たくさんの方のご理解とご協力をいただき、すすめています。

そして、今、力を入れている活動の一つに「よいとり」という焼酎のPRがあります。「よいとり」は、「ご近所や親類同士の助け合いの風習」を意味する、気仙地区



「よいとり」焼酎

の言葉です。住田町にある滝観洞^{ろつかんどう}という鍾乳洞の水を使い、陸前高田市で被災し、現在は大船渡蔵で生産を再開した酒蔵でつくられました。「よいとり」の商品代金は、住田町のまちづくり基金に全額寄付されます。復興の大きな活力なると信じていますし、気仙地区の助け合いを応援して下さる方がもっと増えると嬉しいです。

今後は、5月に「フレンドシップ防災デー」という実地防災訓練を、9月には「愛フェス」というイベントで復興のための応援をしようと、只今構想中です。愛知で東北について学んだり、愛知から東北を応援する機会をつくっていきたく思います。市民活動の担い手である皆さんと一緒に、つくりあげていくことができると考えています。

(2015年1月20日執筆)



コープあいちと連携した物資運搬作業



「愛フェス」には東北を応援する団体のブース 出展もあります

Information

特定非営利活動法人 愛知ネット
〒446-0007 安城市東栄町1-7-22 内藤ビル2F
TEL: 0566-98-5352 FAX: 0566-98-5565
E-mail: info@npo-aichi.or.jp

東日本大震災から4年。今も復興に向け、がんばっている人々を支援する団体、たくさんのボランティアたち。忘れないこと、寄り添うこと...。その思いを胸に、自分たちにできることを問いつづけ、行動をつづける2つの団体に、これまでとこれから、そして活動に寄せる思いを届けたいと思います。

4年間の継続的な被災地応援活動

くぐりはま
～十八成浜で復興に向けての動きが見えてきました～

特定非営利活動法人 被災者応援愛知ボランティアセンター 理事長 久田 光政

被災者応援愛知ボランティアセンター(以下:愛知ボラセン)は、宮城県石巻市牡鹿半島十八成浜へ2011年6月25日～2015年1月24日までに117回のボランティアを派遣し、のべ約7000人以上の方々方が十八成浜での被災地ボランティア活動に参加されています。

これまで十八成浜において、愛知ボラセンは、震災からほぼ手つかず状態だった瓦礫を撤去、「仮設住宅から孤独死を出さないお手伝い」を合い言葉に「くぐり食堂」を柱とした傾聴の活動と、被災者同士の人間関係再構築のお手伝い、前述の活動に基づいた信頼関係を背景に、2012年11月に一般社団法人 十八成ビーチ・海の見える丘協議会(以下:十八成協議会)事務局長に久田が就き、復興住宅建設、被災地の復興計画の策定とその推進などの活動を実施してきました。

これらの活動の結果、十八成浜仮設の住民健康状態は牡鹿半島の他の仮設住宅に比べてはるかによいということが、東北大学医学部の継続的な調査に表れています。十八成協議会が復興住宅建築のためにいち早く被災者の合意形成を図り、行政との折衝を行ってきたため、復興住宅の建築は牡鹿半島の他地域に比べて早く進行しています。さらに、復興計画として、津波で沈んだ天然ビーチ再生と、津波で流された低平地に砂を入れ、一帯を広く砂浜公園にする計画を十八成協議会でまとめ、行政との交渉を重ね石巻市の復興計画になりました。

また、十八成浜に1000本のアーモンドを植樹し、日本一のアーモンド苑をつくる計画を軸とした植樹プログラムも十八成協議会で策定。2014年末に第一期としてアーモンド150本、ヤマザクラ30本を植樹しました。これらの苗木はボランティアが購入し、苗木オーナーになっていただいたものです。

Information

特定非営利活動法人 被災者応援愛知ボランティアセンター
〒456-0006 名古屋市熱田区沢下町8-4 愛知私学会館内
TEL: 080-4530-3117(10:00～17:00・無休) E-mail: aichiborasen@gmail.com
HP: http://aichiborasen.org/ ブログ: http://blog.goo.ne.jp/aichiborasen

愛知ボラセンは被災地で瓦礫撤去から始まり、仮設住宅での寄り添い活動、そして地域の復興への関わりという他に類例を見ないような継続的な活動を、行政、被災者、地域住民とともに展開しています。

一方、名古屋での活動も旺盛に実施しています。その柱は1755人の震災孤児遺児全員が高校を卒業する2030年まで応援を続けるため、サポーターさんの銀行口座から愛知ボラセンの銀行口座に毎月一口500円を自動振込していただく「ワンコイン・サポーターズ2万人プロジェクト」です。この3年間にのべ約3000人の震災孤児遺児に、総額約2億円の応援金を贈っています。この他にも愛知ボラセンは、1年間にのべ200日の各種の災害ボランティア活動を通じて、被災者を応援するいろいろな活動を、小学生から80歳代まで幅広い年代の皆さんと実施しています。

皆さんも愛知ボラセンの活動に参加して、東日本大震災被災者応援活動をこれからも続けていきませんか? どなたでもご自由にご参加いただけます。詳しくはブログ、ホームページをご覧ください。



くぐり食堂で被災者の方と一緒に食べるボランティア



十八成浜でがれき撤去の活動を行うボランティア